

「**发育性股関節形成不全**」について

○「**发育性股関節形成不全**」(developmental dysplasia of the hip)とは？

- 股関節が**脱臼**しているまたは**脱臼**しそうな状態のこと
- 外傷性脱臼とは違い**痛みはない**
- 1980年代までは「**先天性股関節脱臼**」と呼ばれることが多かった
- 最近では1000人に1～3人に発症(0.1～0.3%)
- 遺伝的な要因があると考えられている
- 女児に多い(男児の5～9倍)
- 逆子で生まれた子に多い(正常分娩の約10倍)
- はっきりした向き癖・斜頸がある子に多い
- 左股関節脱臼が多い(右への向き癖が多いため)
- 冬生まれ、寒い地域の子に多い(春夏生まれの2.1倍)

○どうして「**脱臼**」するのか？



生まれてすぐの赤ちゃんは**足を開き曲げた姿勢(M字)**が**自然な形**です。

自分で足をバタバタしたり床を蹴ったりを繰り返すことで徐々に立つ・歩くために必要な関節や筋肉を準備しています。

しかし、その準備段階である時期に**過度な外的ストレス**がかかり続けることで脱臼につながる恐れがあります。

生まれつき(先天性)よりも生後(後天性)徐々に脱臼に進むケースが多い
= (産後のオムツ・着衣・抱き方などのケアの仕方が大きく影響する)

○近年では・・・

1970年代に比べると发育性股関節形成不全の症例は1/10程度に減りましたが、自治体の検診で見逃され1歳以降になって診断されることもあるようです(近年1歳以降に発見される症例が15%に上ると言われている)。

SNSの普及により、持ち運びが便利で見た目もおしゃれな**ベビースリング**の人気が出てきていますが、正しい使い方を意識されている方は少ない印象です。他にも、「**おひなまき**」(赤ちゃんがよく眠るようと、お腹の中の姿勢と同じようになるようタオルなどで赤ちゃんをぐるぐる巻きにすること)のような注意すべきコラムを最近よく見かけます。

★実は、このような**トレンドによる予防意識の薄れが原因**で、

最近になり发育性股関節形成不全が再び増えてきていると言われている。

★发育性股関節形成不全は診断が遅れると、運動発達の遅れや幼児期以降の姿勢(側わん変形や首・股関節の痛みなど)に影響することもあり注意が必要です！



○ご家庭で気を付けること

- *足を無理に伸ばさない
- *ゆったりとした服装を着せる
- *自然に曲げた姿勢がとれるようにする
- *運動を妨げない（股関節・膝・足関節が自由に動かせる）
- *環境を調整する（向き癖などに気を付ける）

予防＝最も効果的な治療

★「仰向けの姿勢」でのチェックポイント



- 写真の赤ちゃんは右への向き癖があり、左側の足がまっすぐになるような姿勢をよくとっています。頭は左側へ傾きやすく、すぐに右を向いてしまいます。
- 向き癖と反対側の首の後ろの筋肉と股関節が硬いことが確認できます。

≪ご家庭では…≫



- タオルや枕などで頭をまっすぐにする（右側にタオルなどを入れる）
- 向き癖とは反対側の手におもちゃを持たせてあげる
- 反対側から声をかける、抱っここの向きがいつも同じにならないようにする
…など赤ちゃんの環境を整えることを工夫してみましょう！

★「抱っこ」「おむつ替え」でのチェックポイント



- 抱っこやおむつ替えの時に、足を内側にして膝関節がまっすぐ伸ばされることで、足の後ろの筋肉がひっぱられ脱臼につながりやすいです。
- ベビースリングを使用する際には、赤ちゃんの足が自然に曲がっている姿勢が望ましいのですが、右の写真のように足がまっすぐに伸びた姿勢になりやすく、抱っこしている方のお腹と接するほうの赤ちゃんの足が内側に向かって押されるため、股関節脱臼につながりやすくなります。

《ご家庭では…》



- 新生児期から出来るだけコアラ抱っこ（赤ちゃんが股を開いた状態で抱っこ）をし、赤ちゃんの足が自然に開くよう心がけましょう！
＊足全体（股関節・膝関節・足関節）が自由に動かせることが大切です＊
- おむつ替えやお着換えの時は、足首を持ち股関節・膝関節をしっかり曲げてからお尻を持ち上げるなど赤ちゃんのケアの仕方に気を付けましょう。



- 抱っこ紐を使用する際に、まだ股関節が十分に開きにくく足が出せない場合は、上の写真のようにお尻の下にタオルを巻いて、その上に座らせてあげると無理なく足を広げた姿勢で抱っこできます。

3-4か月検診で異常を指摘されても、大きな問題がないことが多いのですが、診断が遅れると治療も難しくなり、場合によっては外科手術が必要になることもあり **早期診断・早期治療**が原則です！

- 向き癖が気になる
- オムツ替えで足が開きにくい
- 家族に股関節脱臼の既往がある方がいる
- 太もものしわの数が違う
- 足の長さが違う
- 歩き方が気になる
- 歩くときに股関節に痛みを訴える



…など気になる場合は一度診察時にご相談ください！